

平成30年度

学校評価計画表

奈良県立吉野高等学校

教育目標		校訓の至誠・進取・剛健・親和を旨として、人権を尊重し民主的で平和な社会と新しい文化の創造に努める人間を育てる					総合評価	
経営方針		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人一人の夢と希望の実現に向け、確かな学力を育むと共に、達成感と成就感を伴う多くの成功体験を保証することで、豊かな社会性と人間性をもつ生徒を育てる。 ○ 実学教育を推進し、生徒自らの未来を自分で切り拓くため、将来にわたり学習する意欲と態度を培うことで、地域社会の発展や産業の振興に貢献できる人材を育てる。 ○ 規律ある生活を通して、規範意識の育成や基本的な生活態度の涵養を図り、心身ともに健康で忍耐力のあるたくましい生徒を育てる。 						
平成29年度の成果と課題		本年度重点目標			具体的目標			
地域と連携した活動がより盛んになり、地域の子どもたちとふれ合う機会も多くなった。くくり募集の結果、教育課程を編成し直し、進路を見据えた選択が可能になった反面、各科の人数にばらつきができた。行事等では、まだ、生徒が主体となって動く場面より、教員が主導となる場面が多かった。		1 校内外での挨拶、マナー等、規範意識の向上に努め、高校生として社会に通用する素養を身に付ける。			学校行事への主体的な参加、部活動、ボランティア等社会参画活動の推進を通して、生徒の規範意識を高め、自律する力を養う。			
		2 コミュニケーション力の充実を図偏り、地域と学校の活性化に努める人材を育成する。			課題研究発表会等で、自己の考えや調査結果を発信する力を養い、専門知識と技術を生かしながら、地域で活躍する有意な人材を育成する。			
		3 生徒に自分の進路を意識させることで、学ぶ意欲を引き出し、自ら進路を実現できる力を養う。			「進路学習プログラム」を基軸とした取組を確実に実施し、生徒が希望する進路の実現を図る。			
		4 地元地域の異校種間の連携を密にとり、地域に信頼される学校づくりを推進する。			三学科がもつ特徴的な教育活動を通して、地域コミュニティとしての役割を果たすと共に、「産・官・学の連携」をより一層進める。			
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
式典・渉外等	学校・家庭・地域社会が相互に協力して、開かれた学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○式典・行事等において、例年通りのやり方にこだわることなく、いろいろな意見を取り入れ細部にわたって改善を重ねる。 ●分掌・学年・学科間の連携を密にし情報収集に努める。 						
	渉外活動の更なる充実を図り、魅力ある学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○オープンスクールでの「ものづくり教室」において、地域住民との交流を深める。 ●地域住民の方々のニーズを探り、参加者数の増加を目指す。 						
	育友会活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○育友会活動への積極的な参加と、役員間の連携や共通認識をより一層深め、活動を活性化させる。 ●役員の各行事への協力体制の強化を図る。 						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導	新学習指導要領に沿って学習の更なる充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の向上を重点におき、これからの時代に求められる資質を持った社会人として活躍できるように、教育活動を展開する。 ●到達度別学級編制などを行うことで、綿密に基礎学力の定着を図る。授業内アンケートを実施し、生徒の満足度90%を目指す。 				
	専門学科を持つ高校として、その特色を活かした授業展開を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○2・3年次における各専門科での授業において、課題研究を中心に専門性の高い内容に取り組む。 ●生徒の興味・関心に応じ、授業内容を精査することで、専門知識を生かした進路実現の達成率向上を目指す。 				
生徒指導	吉野高校生の自覚を持ち、規律ある行動ができる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○さらなる特別指導の減少 ●特別指導、10件以下を目指す。規範意識を高める集会等を月1回行い、生徒の所属意識を高める。 ○通学・乗車マナーのさらなる向上 ●1学期は乗車指導、2学期は地域指導、3学期は地域ターミナル指導に分け指導を展開する。 ○喫煙指導の徹底 ●6月より、月2回喫煙防止の一環として、プリントを配布し担当がSHRで展開を行う。 				
	カウンセリングの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の心の相談にあたる。 ●月1回相談日を設置し、生徒が学習に意欲をもつように支援する。 ○不登校生徒への理解 ●学期に1回、外部の協力を得て、教員の研修会を持ち教員の知識向上等を図る。 				
	生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒主体にて、各行事さらなる活性化を図る。 ●月に4回、生徒会と教員が会議を持ち、各行事の取組の見直しを図る。 				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会プリント配布 ●会議で月の目標を決め、朝のSHRで生徒会長から放送にて連絡し、活動を促す。 						
進路指導・キャリア教育	生徒に自分の進路を意識させ、自ら進路を実現できる力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○Success Checksheet を実施し、自らの性格の特徴を把握し、自分の進む方向・指針をしっかりと見極める。 ●1、2学年に実施する。 ○進学や就職に向けた補充学習をより一層充実させる。 ●1、2年は基礎講座、3年は筆記試験対策講座を実施する。 ○進路に関する行事を外部講師を迎え、実施する。 ●2学期に進路ミュージカル、3学期に職業体験学習、面接の講座を実施する。 						
	社会人として必要なマナー、常識を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○3学年の「就職セミナー」を一層充実させる。 ●面接指導を通して、マナー、挨拶、服装、心構え等の向上を図る。 						
	進路先の学校、事業所との連携を密にとり、社会で求められる人材と生徒の個性の把握に努め、信頼され、期待される学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○企業訪問を精力的に実施する。 ●卒業生の就職先への訪問を実施し、求められる人物像の把握と、本校の教育内容の周知に努める。 						
人権教育	教員の資質と能力の向上を目指し、計画的な取り組みを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の研鑽を図るため、校内職員研修を実施するとともに人権教育HRの充実に努める。 ●人権HRの実施に当たり、指導案の作成、HR展開についての事前打ち合わせや事後報告等の研修を学年ごとに実施する。また教員の人権教育関連の研修会への参加について参加率100%を目指す。 						
	豊かな人間性の確立を目指した人権教育の推進体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態を把握し、人権教育活動や授業に生かす。特に特別支援を要する生徒に対して、教員間でその情報を共有し適確な支援が行えるよう連絡・連携を密にする。 						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
		<ul style="list-style-type: none"> ●家庭訪問や中学校訪問を実施し、内容を全職員で共有できるようにする。また「人権だより」を年3回以上発行する。さらに、部落問題学習や性の多様性のHRの実施を目指す。 						
	<p>生徒の実態把握に努め、すべての生徒が生き生きと意欲を持って学校生活を送れるよう、人権教育の更なる充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の立場に立って物事を考え、人の心の痛みのわかる豊かな心の育成に努める。 ●生徒指導部・学年と連携しいじめをしない、そして許さない学校作りを目指す。また各種奨学金のわかりやすい案内を作成し、特に給付型奨学金については対象者への案内を徹底する。 						
文化図書	文化祭の一層の充実と活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭実行委員会が中心となり、生徒主体で企画、運営等を取り行う文化祭にする。また、クラス毎に参加目標を明確にし、より有意義で工夫のある取組を展開させる。 ●生徒対象のアンケートを行い、満足度85%以上を目指す。 ○生徒が日頃の学習成果や取組の内容等を発表する機会を作り成果をお互いに確認することで今後の学習への意欲を高める。 ●発表する教科・領域の枠を更に広げ、昨年度以上に充実した研究発表会にする。 ○文化祭の近隣地域への公開を継続し、日頃の学習の成果を披露することで、開かれた学校づくりの充実と本校への理解に努める。 ●地域の方々が参加できる新しい取組を取り入れ、地域色のある文化祭にする。 						
	図書室の利用促進を測る。	<ul style="list-style-type: none"> ○図書室の環境整備に努める。 ●週2日以上図書室を開室し、図書室の利用率向上を図る。 ○「図書館だより」を発行し、図書に関する広報活動を積極的に行うと共に、読書の啓発を行う。 ●「図書館だより」を年2回発行する。 						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
	読書の楽しさや素晴らしさを認識させ、本を読む習慣を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が読書に親しみ、楽しさを体感する取組を推進し、生徒の読書意欲を向上させる。 ●全校一斉読書会を年2回実施する。 						
保健体育部	<p>体育の授業や行事を通して専門的技術、体力、コミュニケーション能力の向上を目指す。また、生徒の主体性を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム競技、持久走を強化し体力の向上を目的とした運動を毎回の授業で展開する。 ●生徒に応じた設定タイムや専門競技を行い、仲間との連携、個々の体力の向上を図り、達成率100%を目指す。 ○生徒個々の体力に応じた目標を設定し、体力テストの結果の向上を図る。 ●本校の体力テストの平均値を前年度比で県及び全国の平均値に肩を並べる。 ○授業の準備体操や集団行動、授業の準備・片付け等を生徒主体で行うよう徹底する。また、体育大会やマラソン大会の行事で生徒が主体的に活動できるように運営する。 ●達成率100%を目指す。 						
	<p>生徒に健康管理を行う力を身に付けさせるとともに日常生活で役に立つ知識を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保健の授業で健康管理という観点に重点を置き、それぞれの分野の授業を展開する。 ●達成率100%を目指す。 ○食育についての講演会やHR・保健の授業を利用して食に関する意識を高め、食育を推進する。 ●生徒の朝食摂取率90%を目指す。 						
環境整備	清掃美化活動を習慣化させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○清掃美化活動を習慣化させる。 ●担任と清掃監督の教員が連携をとり毎日清掃を実施する。行事の前後に美化委員会を中心に全校生徒で大掃除を行う。○清掃活動を通して地域社会に貢献する。 ●生徒全員が年間2回以上通学路を清掃する。 						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
	備品や設備の充実化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○教室の備品や清掃用具などを管理する。 ●年間2回以上清掃用具や備品の点検、補充を行う。 暖房器具の維持管理や適切な給油計画を立てる。 						
	生徒の安全確保に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の安全確保に努める。 ●防災訓練を年間2回実施する。 ○緊急時に救命処置や応急手当が行える知識と技術を習得させる。 ●普通救命講習を2年生全員受講させる。 						
森林科学科	農業クラブ活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○奈良県事務局校として、農業クラブ活動の充実と発展を図る。 ●クラブ員一人一人が年間を通じた運営に参加し、第69回奈良県学校農業クラブ連盟大会の成功を目指す。 ○交通安全啓発グッズやハボタン配布等のボランティア活動に積極的に参加し、社会性を培う。 ●各学期に1回以上の活動を実施し、地域に貢献する。 						
	学科の特色を生かした地域貢献を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○吉野の良さを本校から発信し、地域の発展に貢献する。 ●森林科学科の更なる活発な活動を図り、地域の魅力的な情報を全国に発信する。 ○吉野林業活性化を目指し、作業道整備に向けた学習活動を充実させる。 ●演習林や学校近隣の森林整備を行う。 						
建築工学科	生徒の希望する進路実現に向けた取組を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○早期から資格取得・検定試験に対する意識を芽生えさせ、受検者を増加させ、取得に向けた対策講座等の充実を図る。 ●各種資格取得・検定合格率80%以上を目指し、取得生徒数を増加させる。 ○課題研究等あらゆる場面を通してプレゼンテーション能力の向上を図る。 						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
	<p>学科の特色を生かした地域貢献を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●課題研究等の充実を図り、学科内発表会をさらに充実させる。 ○さまざまな機会を通して地域社会や保護者を含めた小・中学生等に建築工学科ならではの支援活動を行う。 ●地元中学生を対象に「吉中友灯工房」を、地域住民対象に「ものづくり教室」を開催する。 ○「地域と共にある学校づくり」を推進する。 ●地域イベントへの参加や営繕に関する建築の専門知識・技術を生かし地域に還元する。 						
土木工学科	<p>専門分野の知識・技術の深化を図るため、資格取得や各種大会へ積極的に参加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒個々の進路実現を目指して、積極的な資格取得を奨励し、対策講座の充実を図る。 ●各種資格取得者を前年度より更なる増加を目指す。 ○最新技術の体験・建設現場見学を取り入れ、意識の高揚を計る。 ●社会人講師を活用し、「測量に関する最新技術の習得」や、「コンクリート打設方法」に関する授業を年間6時間以上実施し、内容の充実を図る。 ○各種競技会・コンテストに向けて、新しいデザインに取り組み、強度・重量共に条件を満たした高度な作品を目指す。 ●「セメントカヌー競技会」及び「建設技術展近畿橋梁模型コンテスト(学生部門)」で連続上位入賞を目指す。 						
	<p>学科の特色を生かし、営繕活動を通して貢献を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の実習を通して、専門知識・技能を深め、環境整備・環境改善を図る。 ●土木工学科の専門技術を生かして、校舎内外の営繕活動を推進し、環境美化を図る。 						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
第1学年	<p>基本的生活習慣を身につけさせ、自立した高校生活を確立させる。</p>	<p>○学年やクラスの目標をもとに、欠席や遅刻、早退のない生活習慣を定着させる。 ●出席率90パーセント以上を目指す。</p> <p>○「集団生活の大切さ」を認識させ、互いに高め合える、より良い人間関係を築く。 ●各学期に1回以上、学年集会を実施する。</p>						
	<p>学習意欲を向上させ、将来の進路決定に向けた意識を高めさせる。</p>	<p>○授業への遅刻や欠席を無くし、授業に集中できる環境を整える。 ●教室移動時の遅刻を無くす。</p> <p>○「学科選択」を常に意識させ、教室での授業だけでなく、実習や実技、定期考査に全力で取り組む。 ●定期考査の出席率100パーセントを目指す。</p>						
	<p>けじめある学校生活を確立し、部活動やボランティア活動への参加を推進する。</p>	<p>○本校の「生徒心得」を守り、高校生として自覚ある行動を定着させる。 ●生徒指導上の問題行動のゼロを目指す。</p> <p>○部活動顧問や生徒会顧問と連携を図り、部活動や生徒会活動、ボランティア活動への参加を推進し、特別活動に意欲的に取り組める生徒を育てる。 ●生徒の部活動およびボランティア活動への参加率30パーセント以上を目指す。</p>						
第2学年	<p>基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を目指す。</p>	<p>○欠席、遅刻のない習慣を定着させるため、学級で重点的に指導する。 ○高校生として常識ある判断と自覚ある言動を定着させる。 ●出席率95%以上、特別指導0件を目指す。</p>						
	<p>学習意欲の向上と進路意識の高揚を図る。</p>	<p>○授業に対する意識を高め、考査や提出物への意欲向上を図る。</p>						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
第3学年		●定期考査への出席率と提出物の提出率をともに100%を目指す。						
	ボランティア活動への参加を推進する。	○ボランティア活動に参加することで、学校や地域への所属意識を高めるとともに、コミュニケーション力の充実を図る。 ●各活動に学年より必ず参加者を出す。						
	生徒の進路意識を高め、進路実現に向け意欲的に取り組む姿勢と態度を身に付けさせ、社会で通用する、行動力のある生徒を育成する。	○一般常識や面接・小論文指導等に取り組ませ、進路実現を図る。 ●進路決定率100%を目指す。 ○「進路学習プログラム」を基軸に、第3学年のステージに応じた取組を展開する。 ●早期に目標を定め、主体的・積極的に取り組む姿勢を養い、進路実現を図る。						
	最終学年として学校行事や特別活動等に主体的に取り組む姿勢と態度を育成する。	○高校生活最後の1年を意義のあるものとするため、学校行事等に主体的に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ●吉野高校での生活満足度90%以上を目指す。						